

「情報公開文書」

単機関研究用

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。但し、そのお申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。なお、同意の有無が今後の治療等に影響することはありません。

矢状断ハounsフィールド・ユニット(HU)値と骨粗鬆症の相関解析

1. 研究の対象

この研究の対象となるのは、2018年11月1日から2025年3月31日までの間に、当院でComputed Tomography (CT)検査と Dual-energy x-ray absorptiometry (DXA)(骨密度)検査の両方を受けた50歳以上の患者さんです。

これらの患者さんの診療記録や画像情報をもとに、すでに保存されている情報のみを使用して解析を行います。

2. 研究実施期間

(機関の長の許可日)から 2026年3月31日 まで

3. 研究目的・方法

目的

この研究では、患者さんのCT検査の画像を使って、骨の強さ(骨密度)を簡単に評価する方法がどれくらい正確かを調べます。

現在、骨密度を調べるには「DXA(デキサ)検査」という特別な検査が必要ですが、すべての人がすぐに受けられるわけではありません。そこで、すでに撮影されているCT画像の一部を使って、DXA検査の代わりに骨の強さを判断できるかどうかを調べます。

この方法が正確であれば、追加の検査なしで骨粗鬆症の有無を判断できるようになり、治療や手術の計画を立てる際に役立つと考えられています。

方法

この研究では、過去に当院で検査を行なった 50 歳以上の患者さんの CT 画像と DXA 検査の結果を、診療記録から匿名で調べます(すでに撮影・記録されたデータのみを使い、新たな検査や通院は必要ありません)。

CT 画像では、椎体(背骨の骨)の一部にある「矢状断面(真ん中を縦に切ったような画像)と横断面(真ん中を横に切ったような画像)」から骨の強さを数値化(HU 値といいます)して、DXA で得られた骨密度(Tスコア)と比べます。

これにより、CT 画像だけで骨粗鬆症の判断ができるかどうかを統計的に解析いたします。

研究の結果は、より多くの患者さんにとって正確な骨密度評価法の確立に役立つことを目指します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

この研究では、患者さんに新たな検査や処置を行うことはありません。すでに病院で撮影された検査画像や記録された診療情報のみを使用します。

具体的には、以下の情報を使用します：

画像情報：腰の CT 検査の画像

骨密度の結果：DXA(骨密度測定)検査の結果(Tスコア)

基本情報：年齢、性別、身長、体重、BMI(体格指数)の身体情報

試料：なし

5. 情報の提供先・提供方法

特にありません

6. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの資金提供はないため開示すべき利益相反はありません。

7. お問い合わせ先

東海大学医学部付属病院 (電話：代表 0463-93-1121 内線：2320)

研究責任者 整形外科／檜山 明彦

問い合わせ担当者 整形外科／檜山 明彦